

○ 現状：

- ・ 高速炉の導入は遅れる

理由：ウランは豊富にある

軽水炉に経済的に競合できる高速炉の設計は難しい

- ・ 高速炉用再処理施設の運転開始は遅れる

理由：高速炉の大量導入が遅れる

軽水炉の再処理施設の運転開始が遅れている

高速炉 R&D の現状を分析すると

導入が困難なのは大型高速炉の大量導入

時期が大幅に遅れるということであり、必然性は現状でも変化なし、

現状での原子力の問題点

R&D 活動の低迷

優秀な人材の確保が困難

○ かなり先に延びた導入時期までどうするのがよいか。

オプション：

1. すべて書類として残し、必要が生じた時点でこれをもとに R&D を再開する。
2. 技術を別の形で活かし続け将来の導入に備える。

一般論としては、できるなら 2. が理想的

○ 現在の大型高速炉 R&D とは異なった優れた別の形を提案する必要がある。

どのような点を満足しなければならないか？

1. 公衆に歓迎される。（多分これだけで充分）

このためには？

- ・ 公衆に役立つこと。（研究だけでは不十分）
- ・ クリーンであること。
- ・ 安全性を感ぜられること。

運転・管理が簡素であること。

事故・故障の対応がはっきりしていること。

運転終了後のシナリオまではっきりしていること。

重大事故の可能性を感じないこと。

2. もともとそれだけでは採算のとれないことから規模を小さくする。

このためには？

小型の炉

ある程度許されること

コスト

もんじゅの利用の仕方もこのようなシナリオの中でかんがえればよい。

小型高速炉 R&D

新しいアイデアを導入すること

新しい冷却材、燃料

小型炉で実用化ということと大型への前段階のどちらかに早急に絞る必要はない